

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～『生き方の・・・〇〇〇』とは・・・～

「真理は月の光のように満ち溢れている」という言葉があります。
『真理』は、まだまだ分からないことだらけですが・・・これを『生き方のヒント』と置き換えてみてはどうでしょうか。『生き方のヒント』は月の光のように私たちの前に満ちあふれているのでは・・・では・・・どうぞ

・・・生き方のヒントを祖母の言葉から汲み取ったという人がいる。

俳優の加山雄三さんである。

以前、加山さんがインタビューを受けていた。インタビュアーが、加山さんの父親が事業に失敗し、大きな負債を抱えた頃を振り返り、

「あんな時、どんな人でも背中に焦燥感が出るものだが、加山さんは全然そんなことはなかった。なぜですか？」

と質問した。・・・加山さんは答えた。

「それはおばあさんのおかげです。僕を小さいころから可愛がってくれた人ですが、僕が子どものころ、何かあるたびに・・・

『お前はいま試されているんだよ』と言い、『荷物が重いのではない。担ぐ力が弱いんだ』と言ってくれました。

そういう言葉が身についていたからだと思います。」

祖母の言葉を反芻することで、自らの人格を錬成していったのだろう。

先知先哲の言葉には、生き方のヒントを示唆したものが多い。

『制限の中において初めて名人はその腕を示す』・・・ゲーテ

阪急グループの創業者、小林一三氏も同じようなことを言っている。

『金があったらできるという人は金があってもできない人である。』と。

『上根と稽古と好きの三つのうち、好きこそ物の上手とは芸能修業教への金言である。』（菅原伝授手習鑑）（上根 じょうこん [名] 仏語。仏道を修める性質・能力がすぐれていること。）

『太陽は夜が明けるのを待って昇るのではない。 太陽が昇るから夜が明けるのだ』

（東井義雄）

物事を為す原点は古今東西不変である。

・・・生き方のヒントは月の光のように優しく満ちあふれている。

大事なものはそのヒントをつかみ取り、実行するかどうかである。

どうでしたか？

この通心（信）が、月の優しい光のように・・・

どこかで、いつか県高生の高校生活や卒業後の人生の「ヒント」になってくれれば、こんなにうれしいことはありません。

東井義男先生は、兵庫但馬で小学校教師として兵庫県の「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者です。また紹介しますね。

